

開校記念日(5月22日)について

令和4年5月20日
京都府立南丹高等学校

今年度は、南丹高校が昭和54年(1979)年4月に開校してから、44年目になります。この間に、校舎や施設の建設、学科の改変を経て、現在の南丹高校に成長してきました。

今回は、**制服の変遷**を通じて、南丹高校の歴史に思いをさせてみましょう。

○昭和54(1979)年開校時～平成4(1992)年度入学生

紺のブレザーにズボンまたはスカートとハイネックセーター、紺のベストが制服でした。ブレザーの左襟には校章をつけました。夏季はハイネックセーターの代わりにカッターシャツを着ました。期間の終わり頃は、1年間を通してカッターシャツとネクタイ(男子は青、女子は赤)となりました。



○平成5(1993)年度入学生～平成30(2018)年度入学生

男女ともに胸にエンブレムのついた紺のブレザー、男子はカッターシャツとネクタイ、グリーンとグレーのチェック柄のスラックス、女子はブラウスとリボン、エンジと黒のチェック柄のプリーツスカートという制服になりました。

女子の制服にスカートと同じ生地ベストがあった期間もあります。その後、ベストとセーターの色が紺色になり、女子はリボンかネクタイ、スカートかズボンを選択できるようになりました。

○平成31(令和元・2019)年度入学生から現在

1棟の玄関を入った所に現在の制服が展示されています。

スカートに使用されているタータンチェックのデザインは、スコットランドの首都エジンバラを拠点とし、正統な英国のトラディショナルスタイルを継承するブランドであるキンロック・アンダーソン (Kinloch Anderson) に正式に承認されたデザインです。

デザインのイメージは、わずかな明るい色と互いに調和しあう濃い赤と青が心と体の健康や学校の文化と価値の精神を表現しています。



開校記念日を契機に南丹高校の歴史や先輩たちの積み重ねてきた伝統に思いをさせ、さらなる飛躍と新たな高みを目指して、進んで行きましょう。

